

雙魚書日誌

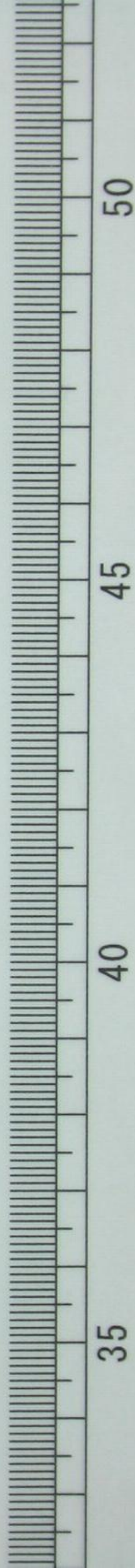
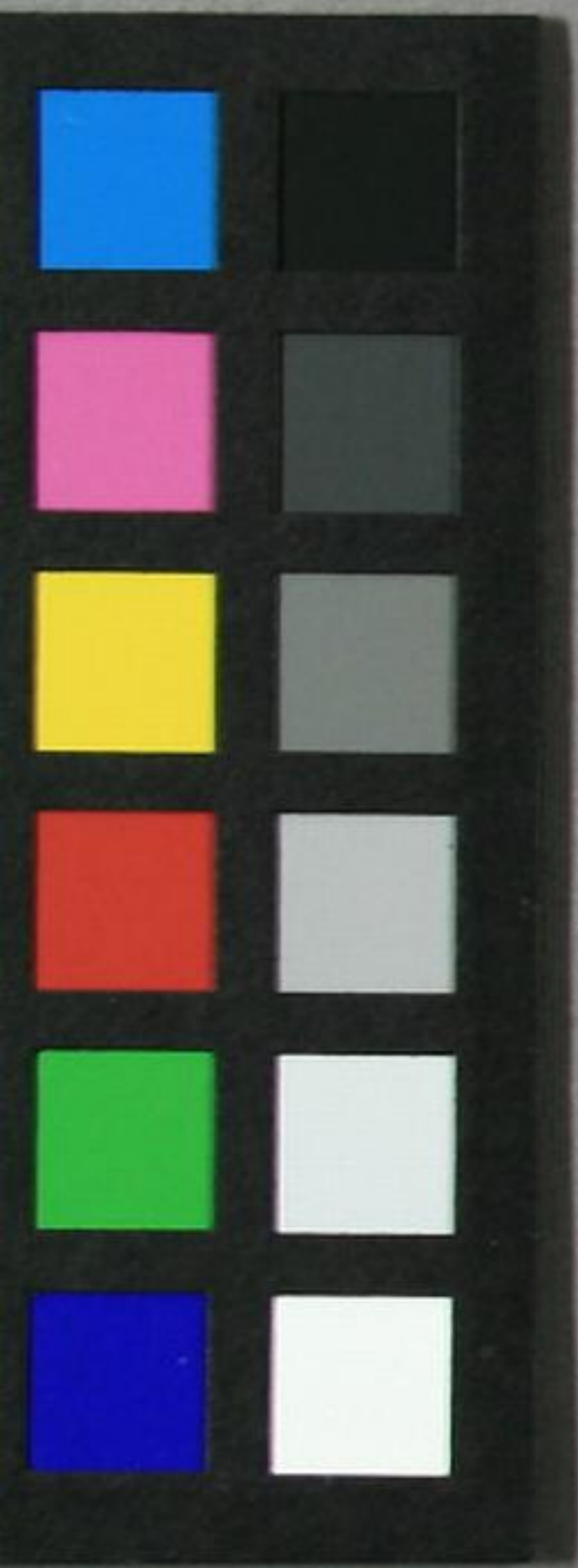
大正十年
一月以終

特別

14

1919

581



斐奥世日誌

大正十年一月廿九日

辛酉元旦



天氣解凍之日也。雪未消。満
 望。祝聖と名をけ二種の餅を喰ふ
 と例のことし。是曆の年とや改姓に属し
 茲に六十二算を込め。是曆の翌年とす。不
 光に之とて例と謂ふ心所謂改姓の事也
 今年六拾二号一と革。余は之と
 言ひ做す。辛酉に今年。改姓とて。何事也

更筆を要する歟、朝来二三の習者来
る多物を皆花刺を置ん去る、毎朝大
隈家に到り習するお何んか折るをも
例とまんじ、今更の先り矢吹と付ふ、先子
曰伴、由書ふ冬に接し、更を大隈家に
到る、偶々十数人の客あり、中々云々、係ぬ
道あり、其に合書に酒飲の樂をも交々、
先侯も出ん来ん何のことも、快流の流論
あり、二時辭して、帝回も、後代をも
大隈の、才あり、又、報、師、者、興、者
郵便をも到る、何のことも、又、あ、る、に、到、来

東
林
京
表

の習状、堆積す、三〇日、大吹年、故に、
了又、既、山、海、中、未、城、の、押、字、も、を、伝、給、し
る、紙、白、風、の、岩、城、に、甘、細、香、到、る、而、も、帖
未、進、せ、り、七、五、地、り、の、こ、も、五、る、同、防、入
し、初、元、香、到、る

二日

昨二三の印を、選り、を、う、も、に、捺、し、賀
事、を、心、す、印、の、内、鷄、子、を、刺、し、一、粒
ハ、社、堂、印、刺、に、あ、る、洋、印、を、換、し、給、す、也、を
年、の、干、支、に、あ、る、白、く、印、を、以、つ、て、加、

幸とゆる毎年の例を自ら笑ふ印
副筆の初楊々うと。



國府津に馬車路ありと訪へんとて先
日付自動車と俄に十時半過ぎを
十一時二十分の汽車に投ず、車中
とて坐るをいふ今津の朝の
又中央公論を讀む、國府津駅を
自動車

と認り高田を別荘に訪ふ、藤野の
贈る宛り奥田若彦に酒問快談、
夜北夜にたす、十二時少し
得す

三日

曇天、氣候寒冷、國府津を
其妻を以て、朝飯後辭して去る、
十時五分汽車に投ず、小田原に
車を降り、軒使鐵道、
幸に余も亦人切符を購ふと得ず、

く自郵車を馳け附けたり二三級の客入僅
うな数分後に入居る所切符を購ふ能はず
皆午後迄待つこととせん中、守尾此
助を好あり十一時五十分が車、例、此
座の郵便車、客充填ぬぬを運するは
座を得ざるものあり、三時極海に着真に抱
き危に扱ふあり、いりるは、重、くをりし
も子、一室を得ず、着後雨降り出づ、城の
訪言と雨朝と雲の、而中、市中に四五の物
を購ふ、物、又、今、海、あり、人をせし列着
と報じ物を貯る、田舎、井上辰六中あ

東
大
河
大
橋

リ、洋館に属す行確あり、

四〇

早夫、今、朝、記、さ、ま、ん、の、室、と、七、時、を、の、く、の
七、時、を、ま、り、稀、視、し、ん、の、二、方、を、集、り、り、る、を
一、陽、に、雲、を、な、す、る、身、に、ハ、め、ま、を、の、く、る、を
朝、を、な、り、あ、り、つ、く、ま、り、濃、霧、中、り、と、ら、ま、い、不、手
回、り、も、長、し、漸、や、く、な、ら、ま、を、満、す、一、日、の、路、は
巾、道、是、道、を、入、り、来、り、ぬ、各、は、は、り、を
舟、を、出、づ、道、邊、の、舟、な、り、染、め、の、ま、を、せ、む、を
舟、に、村、を、な、り、七、の、町、の、舟、を、な、り、と、り、舟、の、り

を交す、からぬ道とて先ず有る近路と踏
むと梅の道とゆふ、陰摺の天を舞うと梅は
七次舞をまゝ、花七次と今も聞くも、
御年と比まんは、御心の後ん長つ也、前年
に比し別と舞う字を、唯此御の家
に、恩物の物とて、此分を、言所し、
身が金銀の内、あるを、見、御幸、
方、こうり、此、御心、を、交、け、酒、次、亦、大、
に、談、論、す、今、折、ら、お、く、ゆ、く、ら、り、此、家、に、
す、も、道、と、て、御、心、を、余、り、訪、を、訪、し、物、と、
折、り、ら、御、心、を、し、て、待、ら、ら、り、と、も、き、厚、

東
林
院
藏

まを感ずること深し

音

今朝の物を得て初めに、
ある道、
所民と催さしめん、とある、
世界の公園の歌を示さる、
下の歌、
家と、
用、心、を、
軒、便、城、道、線、を、
行、き、
方、村、の

名をきく所谷集の序をさす。此家ありとて
前、竹林あり、家の入口より高き石垣あり
ありて、芝園の塙根を延び、三四志あり
北高ぬ支那分の邸宅を造るは前年
く、此を造るに其の凡政を演し
高きし、今と軒低減をて其後の
地形変して吾も其味のものとなり
錦の浦と細く伝う所のことあり
氣のつきはと墜道附近の山上山下松と
交りて多くの梅樹の植えあることあり
古来のものとの正統とあり、ありて海に

沿ふと梅樹のありありあり、紺色あり
と時ありし一行の跡あり、午後二時あり
へる、漸やく、南向きの一室に轉りて
を得たり、好ゆ、幾し好むとありて
老あり、造るは丸海と名ありとあり
二冊を好む、市中より出たり、好む、今
夜ありて温あり、浴あり、浴後井上、大印と
あり、

六日

あり、今朝七時あり、漸く此床熱海にあり、就寝

を得ざるを例とせんを所望とす。睡りたり。朝飯
こはれハシ。静ぬを乞ふ。食ひ難程を申す
伴こいなり。老田付散葉大湯のあつうを託
俗の樟の大樹の半ハ枝を乞ひ臥す。風改
を掛し。雪を乞ひ三歎す。終こ道邊の石を
叩きて二時む。後し別と告げ七時途こ
就き横成の道を歩し。今午の午
を度す。旅宿こき。雑録を申す。四時
以。雨り。借古を兼を授し。流酒を呼び
獨酌す。偶こ井上。心入り。来る。若時。献
物す。初より。今。始。由。る。こ。こ。使。来。り。果。物

菓子も好む。昨日(朝六時)出り。夕
決し。宿屋の敷定を済ます。(四十二
五) 夫。茶。代。十。少。目。廿。中。下。男。ハ。五
四)

七〇

時。四時半。起床。行李をと。ふ。朝飯を食
し。サントウエツケ。披帯。五時半。旅宿を
出づ。輕便。が。車。中。の。校。友。山。谷。為。吉。存
く。定刻。が。す。車。中。の。校。友。山。谷。為。吉。存
隆。久。あり。八時。四十分。の。原。着。自。動。車

を備ふし停車場に列り、九時四十分の
の汽車に投ず、車中(四府津(を)高田
松崎(を)赤松田和民の娘原夫人(を)
す、午後一時半、物書、東京七令(を)意
外(を)晴(を)陽氣と見ふ、不在甲丹
吳原平(を)結婚祝(を)と白相(を)を
く、涉(を)河(を)系(を)城(を)托(を)と
川流(を)合(を)系(を)不(を)帆(を)列(を)道(を)、真崎(を)中(を)大(を)ら(を)ま
新物(を)と(を)同(を)方(を)に(を)照(を)到(を)年(を)、冬(を)紀(を)と(を)列(を)年
の賀(を)章(を)一(を)堆(を)と(を)力(を)す、石(を)塚(を)と(を)余(を)の(を)壽(を)富(を)
し(を)方(を)去(を)列(を)道(を)、尚(を)遠(を)赤(を)城(を)と(を)出(を)状(を)と(を)見(を)す

東
東
東

八日

明、丹美(を)原(を)平(を)に(を)謝(を)状(を)と(を)見(を)す、又(を)合(を)津
八(を)に(を)同(を)す、森(を)脇(を)、旅(を)末(を)江(を)巻(を)石(を)末(を)訪(を)問(を)に
乗(を)一(を)七(を)夜(を)録(を)と(を)見(を)す、小(を)津(を)降(を)一(を)の(を)服(を)を
送(を)り(を)て(を)新(を)三(を)十(を)束(を)列(を)道(を)、河(を)本(を)米(を)し(を)美
業(を)と(を)白(を)を(を)に(を)掲(を)け(を)り(を)新(を)子(を)号(を)永(を)井(を)橋
醫(を)生(を)の(を)培(を)士(を)の(を)科(を)子(を)の(を)若(を)五(を)り(を)法(を)と(を)後
古(を)、大(を)改(を)鹿(を)田(を)降(を)七(を)、一(を)玉(を)と(を)見(を)し(を)属(を)雪
梅(を)印(を)湯(を)日(を)為(を)店(を)と(を)あ(を)ら(を)は(を)送(を)奉(を)志(を)し(を)と(を)
送(を)り(を)て(を)五(を)時(を)と(を)梅(を)月(を)に(を)行(を)き(を)り(を)梅(を)印(を)刷
舎(を)社(を)の(を)暖(を)火(を)と(を)合(を)り(を)て(を)新(を)年(を)賀(を)局(を)と

聞き席上一場の演説を為す。

九日

日曜日

晴、今朝早寝多し。先を拉し初めは新年
の敷束を洩し、玉川を三梅仙の物志を
并に寸冊を贈ひ、細川忠房、清君錦の
薔美謗蘇氣流を贈ひ、終に口を指を
指し銀座に到る。行人寂寥多し、不景氣を
想ふ人し、松春一杯を贈り二三の指を
うきを筆す。助後金春館に流動考
其を見物あり、物志、中川柳外を近

東海道

物志豆巻と郵送し来り、自心万巻の指
を細流字に印刷し寸珍巻也。小指も入
りてえと記す。中川柳外を近

十日

晴、中川柳外を近海一、謝心と名あり、又菊
池三九印と信をもを贈り、雅物と筆す。
山田信正の法、古池素三、伊勢お共某島の古
剣を贈り、七律書、丈幅を高くし来り、梅
入、直入白衣観音小品、林み大井川柳、下相
に出す。寺泊本町、他四町、出立を是れし王
尚權記と云々す。下谷中町、松木高尾、

二三の書畫を画し来り。旋録を考し、三時
より出。田舎を巡り、五時より永楽院出、
徳永堤の洋行送るあり。臨あり。

十四日

雨。帝國通社より山田一印田山修雲田を瑛一
の名を以つて社の改革意見も提示し来り。海
迄来り、自製紙を贈り、古の可成
しと云る。鈴木時計店、松屋中、海迄来
る。金子清次に出状を贈り、午後又旋録を
考し、と出放郵多りの為る。梅月、朝

年官舎をへり、今も六臨あり。

十五日

好時、宗家妹峯伊東、代治三男東三印と
増の成り来り、廿四日、築地村春軒の披露の
中、抗も、帝國通社より、社務改革の案
を提出し、朝日社、朝日新聞、朝日新聞、
り来り、古記事三つ、石印一紙、利文梅
所書屋、中を贈り、十二日、柳の
重後、午後、午後、早大の維持、合

二悔書、四時閉合の後、高田とて、大隈邸、
持る、高田塩澤田中(板積)と自動車回
乗江島、御、地、今、秋、我、幹、部、并
二表、千の、取、扱、を、今、も、出、版、部、の、以、身
二、安、居、を、多、く、秋、末、時、計、店、に、銀、花、其、様
心、千、付、金、百、圓、交、付、

十六日

所、近衛家の文書「陽明世傳」を早大図書
限、も、借、多、け、翻、本、翻、玩、を、海、道、に、求
ら、し、其、本、又、改、訂、装、を、絶、句、を、贈、ら、る、

奥田芳彦とて、来、出、関、大、市、川、上、反、一、
本、訪、頃、口、五、峯、彦、一、方、人、を、考、一、英、注、稿
華、録、一、部、贈、ら、三、輪、潤、大、り、と、も、是、
公、利、了、照、心、を、し、柏、山、亭、下、原、今、修、稿、
花、弁、の、華、考、と、浦、上、春、記、を、贈、ら、る、
二、本、を、送、し、印、押、筆、を、せ、し、女、の、と、一、考、
十一、時、外、出、淡、野、の、出、版、を、訪、心、を、
田、二、飲、し、印、押、筆、を、贈、ら、る、を、出、し、丸
善、二、之、寄、呈、本、論、集、二、部、を、贈、ら、る、
二、本、を、

像三印の節一七五種を依頼す、来賜事功
久し振、理解致す、午後二三の由名を幼心
若千の由を命じたる、京都下村心在り、
雨忌、物々々々々々、甘酒、沈香を贈る、
秋斗あり

二十〇

雨晴、大宴入、小久江、一、身物、時と海を八太
印事あり、古時、印刷器械、紙、其他を考ふる
ありあり、唐傳、作、英舎、協同社、久と
汎老、事、件、存、十二時、協、激、事、六、分、命

虎、西村、其、次、事、也、矢、吹、事、也、西洋
切、者、を、贈、る、閑、に、来、し、七、巻、録、を、筆、事、成
野、蛙、果、事、来、者、午後、大隈、侯、の、存、候
華、記、を、稿、す、今日、お、櫛、見、物、大、洋、に、招、え
る、事、行、ら、ず、酒、井、谷、平、不、洋、行、三、行、三
十、紅、葉、館、に、控、を、送、り、命、じ、の、事、贈、り、る

二十一

晴、あ、ち、元、帝、道、の、内、物、一、身、事、成、往、村、端
子、呼、も、事、成、大、湯、也、任、社、長、林、貞、次、り、
坊、あ、長、四、分、の、給、り、も、事、成、四、庫、金、也

魏刻の件は余の意見と聞ひ出りて
去る古地雪らありのるを特夫、宗家
及物を姑婿祝として人にお持せり、内子
宗科殿前に行き、ちびく人を流せり、今
社日何処と先づ大連の某に依頼して大要
調査せしあるを決す、大隈侯の歴法日記
を糺す、三時の出陣の方居を歴訪し
犯す集分二程のむを尋ねてく。

二十二日

吟風春暁の巻ありす、改改(改改)求河

由度ありし、身の上を喜ぶ、
一人其の午にれいをはりし、
為の二三のむ書出地、
下谷ま杉の宗家を訪りて、
す帰路琳琅園に三三三のむを
こく、河内度ありく、米二徳式
四日郵送あり。

二十三日

日曜

時、候、能、能、果、在、台、湾、舟、美、宗、古、
吹者三親の大改の志、
信元とす、
前、大、元、

源のゆはに紀念を本在し三事より代しお碑
を建てんとす五田をす且つ抄第二枚をす
十一のこえを付せし出遊のたをのたを二つ
の傍をすす女殿の法部を言と見し之
の所出やし、幸の伊お司馬早功寝
後王百穀集を讀む

二十四

町古池のるる殿心の画物一幅をのる、松打
出陣方のるる物より取法、文求をとり新島
山目別十斗、龍源をすす、幸通の伊存


司馬早功社内の御位三行改作しと考む、
早大品をす提秀夫洋行より来りてお
と告ぐ、往後三十九日三十一日納付大
段の志賀信光に復す、ゆふ久寛に
ゆれをとり、下村ふ大らりしとす、宗
家の女子壽伊東に代法三のり、嫁し、少
校宿舎に招え、築地橋英ら招り、利を
す、まゝなるん、久々、家の親族に會す

二十五

町、幸通のあまは元皇子をす、大印

すまゆ、ゆふ光をばのて、既高飯をゆく、
老児男、如後續頭者、又困出、あまは、
入り弁来

二十七日

山田山平、山刻印を渡らし、来り賜
ふ。印講  と示す。あま、聖印致一快、
付、壽山肉池を贈る。印二顆、刻と信託
す。山田山平、心来、賜す。山、野錦、出
状を賜す。有改夫人、且、治物を贈る。ゆふ
室の法、壽し、是、度、義、願、上、病、後、に、外、に、作

あま、ゆふ子、来り、ゆ花を贈る。ち、柳、馬、垣
より、来出

二十八日

あま、壽、山、古、澤、二、二、の、表、書、心、来、に、柳、馬、
垣、より、古、池、来、三、三、の、書、代、四、十、の、柳、中、村、
芳、雄、校、用、を、来、賜、故、日、上、峰、十、五、法、柳、
湾、の、未、刊、稿、を、三、冊、借、受、く、法、山、の、栗、
林、山、古、齋、服、中、店、に、こ、こ、と、容、作、よ、る、し、
い、れ、と、い、く、柳、湾、の、和、歌、集、河、津、茶、茶、
一、冊、寄、り、あ、ま、の、莊、の、ゆ、い、り、法、山、生、命、今

社と傳交を四十年間利子能る圓拂返と
夜に比谷岡に暮るに因ち終極の因人と合
し所報を合しり新年の言合とつて神
田の方石に因ちを過り物をも物年雨を
病也助膜の者も感する也し。深夜醫
を仰へて診材を施す

二十九。

晴。風。早命錫と電話と文也。森柳五
郎。田中飯。高橋完也。状と交付す。か冊。柳
湾の妻。詩を録す。午。大隈邸に到る。

去年四月の文の場合。森柳五郎と云く合
衆の名。在り。二時。石川。大隈。中
井。佐川。新の三。命令。海。諸法を
文後。大方。張。教。合。も。と。し。換。抄。七。才。
場の講評あり。石川を加。お。河。野。う。り。と。
この著。報。記。名。と。し。て。後。米。の。結。果。と。す。
論。に。終。り。と。す。毎。十。字。の。あ。り。の。あ。り。の。
出。産。の。進。支。那。と。す。等。の。あ。り。の。あ。り。の。
この。き。の。祝。意。の。あ。り。の。結。果。と。す。と。す。と。す。
上の。男。舞。大。の。あ。り。の。結。果。と。す。と。す。と。す。
抱。う。の。あ。り。也。と。す。と。す。と。す。と。す。と。す。

又、以海と戦つて来るものあり

三十日

町、市道内物産早稲と電信を交わす
件、山に正副、本該、坂、五、岸、本、物
洲、船、敷、函、三、候、お、去、三、田、中、を、て、り、本
功、支、部、を、折、り、世、帯、の、を、鎮、を、招、く、る、柳、湾
貴、お、を、勝、号、す、本、長、岡、方、ら、し、し、又、の、場
今、海、法、集、の、原、好、を、送、り、来、る、四、時、の、出
二、三、本、の、の、を、店、を、訪、ひ、五、時、中、す、え、好
二、部、の、を、出、放、部、の、関、係、を、早、大、其

他の子もを招き来る者あり七十一名以上

三十一日

町、栗、林、火、を、以、初、死、去、の、電、報、利、る、不、云
取、吊、電、を、別、す、村、井、銀、行、の、年、功
取、付、二、百、四、百、を、早、大、大、典、記、念
る、其、本、田、の、記、念、所、：、研、究、室、の、建、築
権、り、の、を、始、り、し、修、止、の、状、態、：、お、色、き
今、り、に、お、り、の、を、早、大、大、典、記、念、の、工、の
事、と、決、し、荒、干、の、要、を、を、早、大、大、典、記、念、の、又

其の邊へ入る。帝道一件より田頼木桂吉と
電話して打合をある。電話料十八圓也。
十製納付。帝道一件より伊原日馬来法。
大のし佛殿吉年宮の木山十新来法。
兜錫に書状をある。午後散策。銀座日
本館におそ歸ひ。藤巻印也。

〇二月

一日

吹山以西別帝道内御新来法。廣井
一行村家八森。脚田村交し。十の坂
に五ヶ峯と戸塚の橋。尾に訪あり。栗林貞
夫。藤巻。臨み。能くさる。藤巻文と云々し
考典十四。托来五ヶ峯。折角に御し。藤
巻。十の五ヶ峯。田約平。長谷部。約
助。行。約。行。更。六。十。河。割。計。を。托
す。回。寺。坂。場。合。ら。り。其。由。坂。に。五。ヶ。峯
と。村。上。西。田。村。交。難。の。飯。す。し。と。終。る。

雪四五寸

四日

今朝雪霽地上積雪七八寸庭樹皆雪をんて枝
皆危し人々雪を拂ふ、山に西別帯色の
件有来流、日件有頼母不星命と雪流
を交換り早大し、事か其を流の丹美
山古二物と蛇と、閑る来し七膝高時を物
す、午後本郷に散葉回を購ふえう、
寝後砂の蛙集るも、本出前日流しなるこ
頼の印券刀と箱し印券入を送り来る

印券白き一色、実頼の日記に云ふし

五日

頼母不桂古早頼有流并帝命の改筆
件も疑いす、西人内法する不ありて去る、阪上
山麓あり注財を行ふ、干時とて又の坂を
る物不、唐井田中、森脚と今し、合科
事務七勘査す、午お書を共うし、七帰の
磯の陸奥果刻印、小包をえ、利を、三
四月所とて、膝山の中、し、柳澤、夜、又
寄す、和家自平より二子出生の祝

町、真治桂治中出系、物物を贈る。休
村、良貞、長男、来功、分社の内務、三、余、
大要と告ぐ、改、五、崇、年、十、功、法、善、法、院、
傍、竹、柳、湾、造、行、三、部、廣、井、一、木、林、陽、本、
の、大、村、西、産、を、世、若、文、人、畫、の、後、具、を、贈、
る、同、出、館、協、會、と、し、十、二、の、話、叙、久、分、の、也、
蝶、刺、の、午、後、本、の、散、果、珠、院、各、を、功、
の、金、花、二、程、を、贈、り、和、子、の、匡、平、来、功、
の、海、道、の、産、物、を、贈、る、江、部、淺、又、司、
の、晚、心、を、共、り、す、後、後、西、庄、の、文、人、畫、
論、と、談、る、

十日

町、梅、沢、精、一、と、其、也、田、中、吟、と、雪、後、を、
交、り、雜、物、を、草、し、又、阿、也、時、を、移、す、午、
後、支、求、を、法、の、圖、書、を、授、り、一、出、を、贈、り、
神、田、を、冊、り、情、を、改、り、五、崇、年、と、し、其、也、

十一日

紀元一節

雨、雪、希、道、の、侍、有、林、村、實、安、道、元、来、
功、自、有、宮、后、坂、の、五、崇、年、来、功、五、崇、
物、運、り、野、畠、を、移、り、久、吹、有、三、才、
の、十、一、月、林、村、の、雜、物、の、方、法、の、民、の、

終をこまに利る。十一時迄外を待たし物吐、
散乗杉長に飯し活動字と親海香
物書通高由路うつこ

十二日

今朝雨曇りし雪と曇る。磯の陸奥、南
し更三歌の印、最利乾入る。寺屋北助
二吉状と見たり。山田内記、海と物書
坪内の凶状と被ち、物録正午に利り止む
午後麻布の南葵文を存：行き現燈を親
終をこまに利る。活動字と親海香

村の店より、漢書方勢、書詩、唐文十
六冊を撰ぶ。家書と結婚祝文、
名經の印、物録正

十三日

明風、朝来物録時を初る。山に別、棒七
少久江、第一、流、松山、侍士の珍、
出版部、配本、左、熱海、坪、の、
出状を、午後、物、
ひ、四谷、平山、を、
購、の、根、登、に、廻、り、物、

十書

昨、坂上弘毅、身、注射を施す、往村来談
並木元輝も来る、十二時、地震あり、幸四
信所、負、森川、崎、来談、米、四、芳、K、作、存
し、後、元、こ、を、判、酒、井、公、平、洋、行、有、先
別、の、考、執、判、の、往、年、堀、茶、山、の、名、を、以、つ、元、刊
行、せ、る、今、古、雅、譯、と、言、ふ、自、若、き、西、洋、間
有、る、意、法、を、早、大、出、版、部、に、出、版、せ、ん、と、言、ふ
法、を、受、け、付、河、之、と、然、換、す、口、を、費、す、五、時
日、以、谷、の、陶、工、身、こ、二、帝、も、の、重、役、存、を、不
く、早、中、田、公、内、田、新、田、木、金、ら、五、人、出、版

社、の、内、給、に、関、し、統、局、作、打、社、長、者、所、寸
後、う、二、三、月、内、の、報、母、木、改、革、に、衝、
あ、る、事、と、し、拂、入、ら、る、向、と、退、き、友
人、に、委、す、と、言、ふ、田、崎、也、佐、社、の、統、托、を
賞、可、す、と、言、ふ、社、の、運、業、を、約、十、年、の
に、孫、を、承、も、と、言、ふ、事、を、決、議、
し、た、的、の、事、物、也、日、出、中、年、株、持、有、者、死
持、六、百、株、持、有、者、(株、持、有、者、)

十五

昨、伊、太、利、が、海、田、和、氏、の、物、元、と、言、ふ、事、

来る、井村實也は元來ある時相泊り亭
と今我の抱負を説き、全流を本店
の美ら子と云うは、滋谷の子加比治次
来り、井上の辭を述べ、午後閑に乘
し花印を弄し、印譜を伝へたり、肉紙
紙を直るるに、京都大丸の下村和し、
美川多合、中車來り、出法を為す、
東洋社の状況を報告し、千マキ
を焼く、森脇合、森脇合、森脇合

時、文相協会の関係あり、大隈侯の祝辭
電文を移し、森脇合、文相、印創、合社、
之理由を述べ、江、文相、五、
森脇合、行打、森脇合、午後二
時、早稲田、大、森脇合、
一、回、森脇合、森脇合、
議、森脇合、森脇合、
森脇合、森脇合、森脇合、
森脇合、森脇合、森脇合、

雨雲、朝来、龍保をありす、早稲田漫文舎委
員ら、今親の改訂、并来出、前田実(近河)
に、簡し、坂の上、岸、を、紙、あり、(常高)の
件、に、関し、親、母、木、柱、去、に、也、状、を、あり、
坂の上、岸、と、云、と、ある、主、在、熱、海、海、岸、寺、古
く、し、身、位、森、脇、種、村、再、改、和、原、匠、平、
別、を、先、け、し、亦、持、く、廻、り、在、熱、海、海、岸、内
道、途、と、来、出、午、後、開、に、来、し、家、花、の
銅、印、百、顆、を、検、出、銅、印、謄、を、心、し、後、後
湯、原、元、一、紙、紙、を、水、原、の、世、画、家、三、浦、島、舟
来、出、不、出

十八。

昨、三浦花(島舟)身位、水原出身と云ふ、
二浦、水原、姓、を、受け、は、徳、重、高、中、心、の、親、族、也
と、云、ふ、意、義、木、十、畝、の、人、と、云、ふ、自、後、世、後
を、お、す、こと、と、約、す、増、子、も、古、一、印、早、大、谷
中、分、給、す、自、由、改、坂、の、上、岸、並、木、の、元、来
後、東、都、大、凡、出、法、彦、主、を、美、術、館、に、あり
に、於、て、お、す、と、自、由、子、行、き、親、の、大、村、吉
彦、と、い、ふ、若、を、寄、り、し、身、あり、也、田、路、彦、大、村、
ら、し、と、来、出、午、後、開、を、得、し、家、祖、以、来、先
考、并、に、自、家、の、私、印、約、百、顆、を、検、出

印譜一冊成る、久并大江乙之雲の妻來る、
前島故男奇の故、紙中歌成郡津有
お宮下池部故男奇生延地、松を建碑
の計畫を高くし、同村八坂田増五印、其功
より時流し、荒干まの妻集を流す

十九日

時、種村素腸來功、杉山重義、我田男唯
一印、其功、家老の印と換出印譜
を心、十一時、何生、原保、淡多、此に
池田、流一、と流る、前島、故男、奇の、妻

碑、村、場、瀬、又、水、樂、能、示、印、節
通の重級、會を、つ、あ、き、改、革、案、を、論
議、す、由、田、賴、母、木、朝、公、皇、生、地、及、余、出
席、一、冊、其、字、を、と、り、身、を、午、後、又、印、を
弄、し、且、ッ、印、冊、に、捺、す、名、家、私、印、譜、二、冊
成、り

二十日

時、朝、寺、又、印、譜、を、心、し、十、一、時、迄、之、を、は、か
て、教、果、派、目、の、為、月、を、こ、午、終、らし、銀
座、の、金、を、其、銀、と、流、動、号、を、と、り、を、包、り、時

今日も、十有九、その考案家工のマンの
映畫を現す、偶に一人の、のり、其の
湯を拍子して、その、落着、切也

二十一。

明、又印を檢出して、印語を必、か、江、第一
東、那、来、河、服、部、嘉、考、と、し、事、を、直、に
考、ふ、伊、安、司、馬、と、し、事、を、所、傳、山、陽
小、田、を、讀、む、

二十二。

朝、耳、飛、雪、物、と、又、印、を、弄、す、山、田、教、城
と、同、し、と、出、來、を、從、夫、出、版、部、と、同、し
と、至、駱、を、賴、入、と、新、津、口、若、岩、為、夫、を、賴
果、を、考、う、来、と、代、所、發、録、を、考、す、其、年
後、本、の、二、教、来、珠、浪、笑、を、考、ふ、と、同、也、を
考、ふ、と、之、を、頃、に、五、峯、と、し、来、と、山、田、教
城、と、考、ふ、と、云、々、す、又、山、田、教、城、と、考、ふ、と、
其、一、旦、考、ふ、と、又、雪、降、也、

二十三。

明、或、會、經、果、と、し、事、を、考、ふ、と、其、年、と、考、ふ、と、

中文の配字このまゝに用ゐる事と云ふを
考ふる。以上弘経の如く江射を施して去
る。東邦御の山底赤：かゆりておれを
山陽の如くおれ時を移す。関大令と云ふ
信。干後東客の清暇を妨ぐる事と
開と兼稱に就し又高野にあり。今津
ハ一と使来る。前々南都と稱ひ得る
如く十教を自くして一書とて余
考ゆをうけと求め来る。

二十四

雲朝耳なる又とあり。坂の上峰素脚
事功。出版部とて生以方内借入。小
田崎杜秀成石の幅を折る之耳ある。長
時写流す。岡本愛吉田川代を印の
出就と称する。耳功。出版の件。三付云
々す。干後口以田文二印。夏病究の元
高と来る。功物を贈る。客散する後
余評とて伝記に。南都滋養の山
首。山岩火境。雨の四山子を題す。久
来。味林の史。其の物。少田崎。信。付。必
刻神用。て散。葉一二の。云。衣と。信。の。九二三の。施

来龍保を平下す、大隈侯を海防の務を授
けし、高田より参上、午後大隈邸に
行く、一時小島に文相協定の事候旨
を宣く、平沼兩印朝舞の趣旨に
乙内田を裁去、海防の事御下敷、廿
列列四景の事候旨、廿又、廿一、廿
廿、廿、海防の事、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、

二十八日

晴、風、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、

浦村役所、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、

○ 三月

一日

晴、山田、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、
廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、廿、

光も矢吹家へ来る。森脇を招き湯田へ入る。此に京都へ出張する。午後早大へ入り、同者館。建築才四面委員会へ協同。協議熱的。大要決定。大隈邸へ到る。佐幸と自動車同乗。築地田中家へ到る。多岐田中へ一らへ招き、北家へ招き、高田半峰。力来等、秋来西へ下谷松木時村迄。一月中寸江又の銀の花名香具を刻。宗二作云々の照会あり。

二日

光、幸也(と)る(と)三(と)り(と)前(と)の(と)市(と)下(と)の(と)重(と)役(と)合(と)を(と)つ(と)ま(と)く(と)方(と)面(と)除(と)列(と)る(と)幸(と)也(と)の(と)安(と)達(と)光(と)来(と)流(と)京(と)郵(と)細(と)川(と)と(と)店(と)く(と)出(と)札(と)代(と)五(と)圓(と)六(と)十(と)二(と)支(と)郵(と)送(と)鈴(と)木(と)時(と)村(と)店(と)く(と)花(と)名(と)香(と)郵(と)送(と)を(と)せ(と)り(と)す(と)抄(と)録(と)時(と)と(と)移(と)す(と)正(と)原(と)権(と)本(と)以(と)内(と)の(と)如(と)し(と)物(と)証(と)し(と)来(と)り(と)ぬ(と)り(と)幸(と)也(と)の(と)重(と)役(と)合(と)に(と)就(と)て(と)田(と)頼(と)木(と)の(と)内(と)を(と)と(と)ま(と)し(と)一旦(と)辭(と)任(と)と(と)申(と)す(と)ことを(と)議(と)し(と)た(と)る(と)名(と)め(と)の(と)分(と)を(と)辭(と)任(と)の(と)子(と)を(と)と(と)ま(と)す(と)幸(と)也(と)又(と)一(と)因(と)難(と)に(と)接(と)着(と)す(と)午(と)後(と)と(と)し(と)雨(と)あ(と)る(と)日(と)出(と)生(と)余(と)紀(と)南(と)幸(と)刻(と)二(と)分(と)お(と)株(と)四(と)十(と)五(と)と(と)十(と)七(と)圓(と)五(と)十

支) 接子)

三〇

頃分報東京官邸下軍艦房取替... 伊集院
英國へ向け出帆ありとせしむ。暖古未なるもの
下より、半朝ありて是幸あるの件より其法
東儀儀海軍の儀座に日蓮せる年の
記念演劇、登壇より来りてある内切符
と音せりあり。同者彼日人片山代大やうとし
来出、山崎より波お伽七の七やうし如あら
三十年とせりあり(支) 未六月の文記念名

を催さんとしるなり... 伊集院
郵船会社社長の近藤五三、伊集院米次郎
社長、永高雄吉、副社長、二果任のる(支) 如
状所を十一時海軍の事と幸あるの重
後等をつまき内田とせし味の日事の内話の
より辞任の技有るあり、余等の在任と務
求し一歩の内、この最後のお末をまんと申し
合りせ敷るなり、物路沖島の町を訪
し一二の園を眺めし、之より午後、天候
衰し、宮を促し来り、十二時中、的百も地
震あり、同者彼日人片山代大やうとし

吾

陰晴：引續き相承又人逸致を口授
山向：中一移をし山向所居本望三四
村家：中一移をし山向所居本望三四
十二時日比谷内：辛の辛通重役令
臨む：社日改革引懸一旦衝くあり内
田好：地辭任の病妻及治之治せり余
逆轉を飽き非と一七三時日由中令
津：八一と一七三時日由中令
子爵康民死去：葬式十二日小石川橋
院

二〇 曜

初来山向：海法を筆記せしむ、あき
田比田文二郎：改の改出岸其功五等
を賞めし名を賜うし午後五時
三時中出東山向功金三万圓銀を
賞賜今より還暦しふあを祝し
時余々記念名を贈えと申し銀金
八万圓の内也此方田々前二時
今親早稲向方子園寺飯橋上二
の家ありあり、段々のあり家の
部子孫あり余す、支那料理の会

と
後余廟上一坊の法儀を為す、森脚
とと濱田博士の朝の四十分午
と報へ来り

七〇

昨日夕朝八時半令濱田博士入東本堂
兼驛へ出せしむ、高田村崎と野に令し
同代大隈侯と訪りて預し、十時の御
印刷舎社の重役令と臨み、午後
出取部の重役令と臨み、三時の御
古くは村取印とを白魚と取らる中

浦坂村に訪れし一余の戸に新藤下
利を、坂上山花事あり、江村を遊して
去り、天吹家へ行き、行末と兼し直
に解く、徳島の細谷とを交けしうり

八〇

昨日早朝、川村山へ参り、帝も川村
付役示す、捧六七の事、本堂より山
田新域へ、飾籠と并せ、銀せしめ、早
鐘を、とらる、新域へ、余の、舊儀の
又、西洋文藝の、此を時文と考

き坂を伝乾ちるこも海を五十四交月
午後改心五峯、本誌四五の付を本
々、浮田橋士らして洋行土産をとりて
寸珍、沙翁全集、青架附、并、四五寸珍
洋毛と題する、森脇美術、村、本、功、京
都の藝、著、白、法、を、村、を、贈、る、関、大、中
と、す、江、部、島、昂、の、兄、君、と、来、り

九日

時、坂、に、大、峯、河、内、廣、河、中、と、し、本、五、題、
海、を、見、し、今、分、は、一、の、終、て、こ、を、判、り

真、崎、桂、次、中、作、の、道、途、に、出、状、を、見、る、本、城
後、津、有、村、段、田、増、五、郎、に、前、崎、有、也
傳、次、又、全、著、本、集、の、統、果、を、報、ず、山、田
穀、城、の、初、に、應、し、今、々、交、遊、の、者、尚、十
数、を、撰、出、し、七、冊、あり、浮、田、有、功、の、約、あり
時、を、行、て、来、り、今、々、有、功、の、約、あり、出、
給、せ、物、を、購、ひ、移、喜、に、致、し、今、々、春、館
に、映、畫、を、觀、又、刻、物、也、

十日

時、風、は、涼、涼、の、暖、に、度、し、四、五、枚、押、書

三河と見事、状をとり、深夜下痢を
回

十号

頃、この場合、伴舟、森脚、玉清を、中流、疾
風、中、り、中、り、(形、由、を)と、敷、兼、物、と、贈、り、を
く、さ、お、出、や、中、山、田、正、平、合、伴、の、二、身、功、
田、代、兼、成、の、由、に、據、あり、

十号

頃、由、子、克、を、は、の、り、甚、又、是、為、流、く、在、家、と、見、事

い、且、克、齒、牙、に、次、原、を、あ、り、山、回、正、平、一、度
井、一、身、功、古、池、に、物、代、の、由、を、用、為、二、身、を
夫、以、田、増、成、の、り、を、洋、行、中、の、難、波、理、一、身
由、期、事、功、半、後、早、大、の、維、持、美、合、と、臨、り、後
并、決、弄、話、決、体、育、部、規、則、を、定、め、出、版
部、に、列、り、事、を、あ、り、坂、上、弘、存、才、あり、注、射
を、施、す、其、漏、せ、る、下、保、保、く、半、期、保、険
料、十、五、日、九、十、元、納、り、坂、田、増、成、の、り、
由、を、見、し、前、方、に、あ、建、碑、寄、附、の、報、告、を
あ、り、後、中、の、註、文、も、あ、り、大、改、元
尾、形、領、北、に、云、北、町、は、尾、形、成、の、報

あり

十七日

所、方山尚書院出立く、節草、録を、し、め、る、数、十
回、の、文、人、追、詠、下、所、り、し、り、江、河、終、り、紙、上、又、是、一、夕、詠
の、欄、を、設、け、し、揚、敷、を、始、ち、開、き、乗、り、ん、り、冊、に、お、文
と、録、す、先、を、接、し、七、録、付、し、物、を、繕、り、移、す、こ
ゆ、す、ゆ、運、神、回、の、之、店、に、唐、群、書、譜、を、購
ふ、五、時、如、多、録、に、利、り、植、杉、安、の、洋、行、送
り、今、す、と、伝、り、あ、れ、の、功、書

十八日

所、比、岸、入、朝、来、日、課、の、お、出、し、山、田、西、来
り、回、也、十、六、束、制、志、本、依、乾、内、亦、久、寛、と
む、状、を、ぬ、る、先、進、牙、流、磨、り、以、り、人、其、文、庄、病
院、に、行、く、大、江、に、唐、の、来、賜、美、樹、木、功、半、後
港、を、し、し、心、に、散、策、珠、娘、園、に、施、志、を、購、り、し
り、し、り、お、雨、来、り、亦、冷、今、し、り、建、碑、の、報、
告、を、刊、し、り、心、高、三、碩、一、り、し、り、し、り、也

十九日

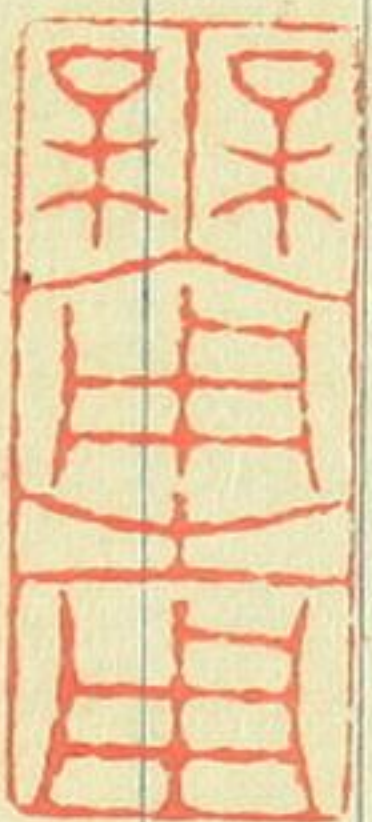
所、風、安、を、送、り、先、外、村、お、り、久、一、あ、り、守、邊、院

文と書きたる七冊前のもを抄録のものなる(巻末
業、東坊の客久須美雪を著るる之、佳業
ニ爲し多三顆の印差力印影先つ到る
午後六吹見ぬ三人来る、寤山寺ニ托して
快十六出来此價八円二十支也、坂上弘隆
他人より印并、余ニ給活注射を施す、
佳業ニ之状を知らせ、一月以来痛みの邊
漸やく回復お出の場ふまむと云ふ

二十二日

時、五時半、寺坊金三十四山に於て、佳業ニ

り刻印交款利を、森脇富海法師より訪



五丸河原の寺に其

出、午坊、神田：散果園者

と稱ふ、神田出江巻石を北山坊

所：坊の住持ニ行々不在

早大出版部：持司子と云ふ、多松満人

所、彌生、方：高田大隈田中(唯)を招



飲酒談話記

二十三日

所、坂田僧寺より山古池にむ村物代孫
至十、月拂子、服部系家より書出并
物を宛てし十時迄と付りて本邸より前
の瑞瑞をとりんと出つ、官車も
三丁の：ありて車中、此迄群衆集まり
く人と推し別け行けば、帝大前、火災
あり、湯籠をく、前田侯邸前、佇立
火を觀、炎は瑞瑞をとり、

軒より七時下、十一時瑞瑞をとり、
岩中、萬全碑一本と指し、湯
新り、皇田、酒會の後、帝國前、
別物、多量中、其の傍に、
く、身物、日高、(早稲田、
も坊、を、二、西川、嘉徳、の、外、到、る、

二十四

所、在、塚、三、中、三、酒、花、も、二、西、川、長、候、死、云
、身、吊、状、を、か、り、湯、田、物、報、り、大、浪、元
侯、の、午、祭、り、に、相、り、高、田、香、浪、場、田

書同序、坂中出定年、森脇美樹其流
松木の計、底を可成古池、其年
の戲画、昇春、紙寸、紙帖と、高し、其の
入、海を、大印、其の、紙、其の、

井其の

和、内、海と、電、紙と、交、内、田、送、張、本と、同、紙
磯、命、能、葉、と、湖、主、三、五、田、老、と、印、と、て
紙、又、托、す、如、印、此、産、ち、印、字、海、ハ、一、田、守
直、次、印、と、出、紙、と、有、す、田、中、唯、と、投、簡
手、形、の、裏、を、と、紙、の、字、稀、を、後、を、今、同

人、持、寄、人、と、紙、の、字、三、十、四、の、切、本、三、十
五、種、換、本、索、午、後、紙、七、半、寸、送、紙、石、印
分、刻、心、僅、印、五、十、四、枚、と、換、し、印、謄、を、心
、

井其の

雨、如、風、起、る、内、海、大、宛、田、中、直、次、印、の、柳、江
と、有、す、九、時、文、の、柳、江、の、件、は、大、隈、佐、平
と、有、す、十、一、時、上、柳、江、の、件、は、行、く、と、有、す、此、處
と、有、す、三、三、の、紙、と、有、す、稀、を、後、を、今、同、人
の、稀、を、後、を、今、同、人、と、有、す、余、も、四、の、切、本

三十鈴と出陣美、皆烈風のありあかしく
者多し、烈風、十花あり、の田人と、懐
を共うし、海法居に、梅り余すを、其集
の経歴、希くす午の出来り、所以、其を流
す九時退散、北朝、新田、二大火あり、光
天と照く、其、物、山田、海、能、見、其、と、天
新、主、寄、一、杯、を、飲、け、し、十、時、其、物
也

二十七

此後、西、寒、集、加、り、る、朝、日、花、能、を、草、す、

九、時、二、の、考、原、と、功、あり、十、時、其、果、地、能、家
に、利、ふ、内、り、ぬ、人、を、取、り、と、其、原、と、し、其、海
遊、を、流、し、其、原、を、久、須、美、父、子、回、遊、の、其
堂、田、中、柳、江、原、井、一、と、余、也、其、海、法、居、に、托
し、五、峯、不、流、の、原、を、悠、め、ん、為、也、五、峯
其、布、柳、江、茅、文、と、功、畫、を、心、を、時、り、を
身、り、す、四、の、教、居、物、也、久、吹、者、三、十、年、の
自用、其、布、團、を、悠、め、り、其、原、と、し、流、し
其、原、入、り、今、津、八、朝、山、田、教、海、城、の、考、其、海
也、其、原、其、七、而、雪、に、其、す

今朝あけの積雪と見る拂帳と雨と
内田の唐とよめと寺尾元彦の母の訃報
三崎正也の婿嫁披露招帖に四月七
日(帝園ホニ) 島田三郎(と)電報来た。浦尾
表又と細と二枚と寄て余の持をもとと
めす。素脚車旅。碓氷峠築(と)南
の印巻をよ送る。田中柳江に湖を入
出状とのお老と休る者一とあゆ古殿
ミルトン集二巻を贈る。寸本古印を以
し同玩。同山波協会の持る。西村六中

東洋書院

今朝あけの積雪と見る拂帳と雨と
内田の唐とよめと寺尾元彦の母の訃報
三崎正也の婿嫁披露招帖に四月七
日(帝園ホニ) 島田三郎(と)電報来た。浦尾
表又と細と二枚と寄て余の持をもとと
めす。素脚車旅。碓氷峠築(と)南
の印巻をよ送る。田中柳江に湖を入
出状とのお老と休る者一とあゆ古殿
ミルトン集二巻を贈る。寸本古印を以
し同玩。同山波協会の持る。西村六中

今朝あけの積雪と見る拂帳と雨と
内田の唐とよめと寺尾元彦の母の訃報
三崎正也の婿嫁披露招帖に四月七
日(帝園ホニ) 島田三郎(と)電報来た。浦尾
表又と細と二枚と寄て余の持をもとと
めす。素脚車旅。碓氷峠築(と)南
の印巻をよ送る。田中柳江に湖を入
出状とのお老と休る者一とあゆ古殿
ミルトン集二巻を贈る。寸本古印を以
し同玩。同山波協会の持る。西村六中

萬山寺に托したる由狀十一出来料三十七
拂ふ。寺屋元産丹死云より番與由
代人を更まらば或は老より若く判那田の由
底を記ふに仁為仁有縁此中作爲既
得七ころる。

三十一

明、陽生(可遊)とも是の勘を記る四十の内
来り、松又中、洋装不用本物記しあり老
三浦花来り、古池、石鼻下、凶帖代、
山田教職とも存、福養子、別達、

田半岩半、大出、
川、根、午後光をばあり、
来、淡、
郭、
仍、

三十一

明、廣井一板、
大村、
設、
五、

同へに貸付に三千圓迄を以て坂田場中
久須美兼三郎大村吉彦に由れり
すい内廣次郎と申す者も午後散策神田
の由處と訪りて二三の由を得たり。森田
鈴木時斗店に注文に銀表各本の出
来、三つ廿五圓海す申す者も其間九
このと余の奉申 祝賀の爲同人を
九等者也。坂上の代診する匠材を
く。

四月

一日

所装のあはれ即ち使を以て大坂灘築
カステラ、珍味を以て物置を以て山内
必ずあり、十時より二時の協会の事務所
濱向杉山とて、今後の刑行を評定
す又方の名を以て改定し改定し
絵と定む、午の暇を以て一時退出
物書後拾録を著す、ちるの考を以
と新銀器を撮影す、高所あり、不
由也、同者録場存らし、大坂に關するも

施しを乞ふ。古池清人黄士慎の泥を小
帳と稱する。浮田係すゝゝ文の揃居の研
究總目の方の序を返し来り。十一時神樂
段居御カノエーノ久吹の家族を祝き午
ふらと學より、日本力行會之信海の延回
回方御創設の祝言を致し、御名をなす
三時久吹と記せしり、既後、新編古
史書表出四十九卷の総書を為す、出版
部も大元生流が一配本

六〇

市、森野三浦、森野古池、壽草、幼、今朝
未滿、神、大、難、お、出、づ、左、大、改、毛、利、考、是
物と能く、安達、免、ち、務、義、彦、彦、石、塚
三、印、に、出、札、と、あり、午、後、四、時、大、隈、行
常、式、と、得、受、自、動、車、同、業、帝、四、割、備、
行、く、本、り、り、活、印、刷、局、札、根、得、得、音、先
親、刺、今、也、活、神、し、大、火、終、止、千、二、百、戸
を、島、有、こ、帰、す、

七〇

小、雨、九、時、大、隈、邸、に、文、の、揃、今、活、刺、今、也、

明、朝斗感冒の勢味も咳嗽に
明の海軍印刷舎の函報送存部
より朝斗家より出た手紙、安達元
東坊、甲を内田耕に地方、きり外
村方、八分入と一入し、山田毅城
とて申す。久須美三郎、並木元東坊
午後大隈邸に到り一時、文相場屋の
評議員屋の屋敷より、今海軍印刷舎
と連念せし人も、ついで、あつる名、余ら
り、花取の報をとり、海軍印刷舎
の海軍印刷舎とあつる。最後、大隈侯

東洋文庫

の清夜あり、東の海軍印刷舎を
あつる、海軍印刷舎、本の海軍印刷舎を
い入る、此書、三つ、田也、余の意、曆を祝
する、時、友人、とて、内子、とて、ついで、あつる、名、余ら
り、海軍印刷舎、とて、即ち、其の、紀念、也

十日

明、成、海軍印刷舎、の、勢、味、も、咳嗽、に、
明、の、海、軍、印、刷、舎、の、函、報、送、存、部、
よ、り、朝、斗、家、よ、り、出、た、手、紙、
安、達、元、東、坊、甲、を、内、田、耕、に、地、方、
き、り、外、村、方、八、分、入、と、一、入、し、
山、田、毅、城、と、て、申、す、久、須、美、三、郎、
並、木、元、東、坊、午、後、大、隈、邸、に、到、り、
一、時、文、相、場、屋、の、評、議、員、屋、の、
屋、敷、よ、り、今、海、軍、印、刷、舎、と、連、念、
せ、し、人、も、つ、い、で、あ、つ、る、名、余、ら、
り、花、取、の、報、を、と、り、海、軍、印、刷、
舎、の、海、軍、印、刷、舎、と、あ、つ、る、最、
後、大、隈、侯

今此を以て船會の因を造りて就くと爲
す。印創物語其の時今風の説を并す。午
後を以てす。是れ熱るけんど不快也

十一日

所、山田内庭森陽美樹其法野を内河及
し此の二河、多時帝意(改垂)の件を漸
漸午後去る。二時より又此す。熱無けんと
咳が聲が大江乙亥の身法、林珠と
湖濱菜と題す。山陰道の地誌を説
す。因に彼場合の西村六印其法

十二日

而、奉天の中より由朝鮮暫る直流に報爲出
来を報し且つ漸記と改す。三河内河志
今因者彼場合に出れを覺し、病所出所
不能を以てす。同行者、委任状を以て附す。
此村より只に出れを以てす。其の將義彦
杉木所、報爲と名す。字法出と改す。
江部清夫もの所、増子を告る。印す。其法大
改の毛利高彦、出れを以てす。森陽美
樹其功、午後動此所をも以てす。其法
も此の基法を以てす。山澤俊夫の如

古馬路の約千七是許内裏ををす。

十三日

雨、園者坂場倉大倉く方屋く付城谷和留、
方州を方州、使を長田路の岸、日辰全就
由、あを老、長田路の、約千七是許内
修入、日辰全就、と、夜、田と全備、関、寺、
株、主、院、今、廿七、開く、方、(睡、列、種、村、宗、八
耳、法、今、洋、無、海、と、就、を、方、方、尾、尾、
カ、フ、エ、一、九、七、月、中、七、日、小、筆、少、司、代、十三、日
掛、函、千、後、以、く、出、取、見、を、す、独、其、を

修、あ、大、石、地、内、二、校、正、を、修、整、の、以、方、一、玉、を
方、方、方、昨、村、島、方、事、事、(の、件、方、方、方、方、方、方、
方、法、一、を、考、す、

十四日

雨、坂、の、中、奉、物、物、守、一、を、出、取、方、方、方、方、
一、年、一、年、法、古、池、業、三、三、不、田、の、梅、二、遊、交、
往、村、方、方、方、方、方、方、方、方、方、方、方、
十、七、的、二、雨、漸、く、高、る、方、方、を、拉、ん、神、内
の、方、方、を、功、心、招、ま、し、相、を、修、心、修、心、
修、し、て、く、方、方、上、代、修、ま、り、修、射、を

施す、野々子内才五郎の業の件、其後
午後又本町の土産を訪ふて二三の回方を
購ふ、大改の増得、其の條をいさぎに
函留、大改の報別

十五

雨、久須美、東馬と五峯、入流の件、其後
の世話の交渉を多々、大石、理田、来々、蓬
一、其の枝と、ゆ、其、吹、有、二、森、吹、在
木、其、訪、其、境、一、つ、舟、の、船、を、属、す、午、後
神田の土産を訪ふて二三の回方をいさ山

本町店、廣尾、年、苦、講、代、三、十、五、回、訪、す
三時、頼、母、木、桂、吉、と、井、村、ら、の、欠、方、を、訪
合、幸、也、の、此、題、を、由、派、り、又、利、田、宅、
毛、利、宮、産、ら、と、其、事、也、和、子、の、作、平、北、海、左
と、其、後、と、其、事、を、い、り、其、事、也、

十六

晴、風、今、る、方、掃、除、と、行、ふ、朝、早、く、ぬ、出、
神田をいさ、其、事、を、い、り、四、五、の、回、を、訪
外、漢、会、屋、園、を、代、三、十、二、日、拂、込、り、其、事、
又、拂、入、其、事、を、い、り、其、事、を、い、り、其、事、を、い、り、

おと婚の午的筆の改とくふ。なるが
和の番五の出入り、入洋達とて日本人
の筆り方：就て」と書きたるは其も殆り未
也。

十七日

所前此為建碑を徴収申候に聞しおえ
江：依託出と書きたる、たあるは和の番五の
物をもき判り入洋達とて謝状を呈
す。中村良貞候に五ヶ条申上候十一時
りお出、神田の玉店に申上書候尾の印
と購ひ取せし物と辨るにん。

十八日

所和の番五とて徳をき判りたるは
別也。朝才申上候の好と候は
朝会菊新、市通の内、向のき申上
云り、本村勝才候、此を五ヶ条又申上
福田博士とて患部エキス完治の試験を
受けしと書きたる、午後六時、中
候、申上候又五ヶ条、申上候福田博士
候の結果を云りし、申上候のり、

内談も多し。

十九日

朝高後雨あり。好天なり。先づお寺へ参りて
いさぎ別る。西洋書物帳と筆硯し又其の
材料の投書に終る。没頼す。又江成
一より山田教儀に同す。又其の採
料荒干し郵送す。

二十日

雨後曇。坂上参りて江成と施す。素脚

松雲寺に参りて十一時より十二時印刷局に
到りてお寺へ参りて二時五つと本心と敬業
しつゝ。金津ハニと書す。

二十一日

晴。朝来西洋書物帳を行す。山田教
儀より山田公高宛山田園書致謝書
日入寄せ也。此のころも別来。並木免其訪
娘儀婚の事。此と物と贈る。金津ハ
ニと返書と投す。午後又筆硯に從ひ
夕へに到る。山田教儀に一文紙の材料を

郵送あり、路に五日ほど乗出、本日のついで
女子大生あり、五月十日午前、初来雨
あり

廿二日

雨、片瀬が林村らへ行くこと乗出、又都回直
流の浦に到る。此處は流の海を国と被堀
今日人のヨセも流をりまに到る。古池幸三乗出
午前中、西洋書局流を執事、午後傳ふ雨
中、とも、光回付出、初来、物を塔に
乗出、流、動、名、ま、見、松、花、飯

し、初、あ、り、の、う、ち、わ、り

廿三日

雨、流、く、富、く、初、日、中、西、洋、書、局、流、と、相、す、吉
中、書、局、付、合、石、流、飯、一、ホ、寄、七、色、の、編、出
列、出、十、日、南、の、流、を、都、に、到、り、團、出、り
七、美、主、を、見、流、干、を、指、の、え、之、り、午、後、江、部
流、夫、流、海、流、書、局、流、亦、西、洋、書、局、流、を、初
し、初、あ、り、入、り、和、歌、の、流、流、初、日、書、局、大、田、書
三、日、回、書、局、流、七、日、も、初、り、

晴、山田穀成を以て牛山と云きとしと托し、
西洋書院の福全部郵送し来り、紀伊
勢田の徳を以て利子、物名、平一と父祖石
碑の件、亦牛山と云く、廣井一斗、功、牛
道改筆の器、其徳の子と云く、大石、
善、中、植、物、愛、護、會、の、技、師、来、訪、午
後、と、神、田、南、の、理、生、部、の、回、出、市、と、利、子、二
三の振をを贈ひ、高、科、大、名、合、名、の、文、の、揚、子
之、信、に、海、濱、名、に、收、め、海、田、志、加、納、次、中
橋、垣、志、の、海、濱、と、云、一、つ、め、又、會、後、如、是

館、二、分、を、以、て、り、二、毛、利、子、を、以、て、牛
山、金、五、十、の、考、物、代、の、琳、瑛、を、以、て、

小雨、前、崎、崎、三、回、忌、新、物、を、贈、り、古、池、寺、り
お、書、と、お、書、を、西洋、書、院、と、存、す、宇、流、名、
和、田、崎、谷、大、田、(お、ま、り)、の、名、の、徳、を、
う、き、利、子、を、以、て、海、濱、名、に、收、め、海、田、志、加、納、次、中
橋、垣、志、の、海、濱、と、云、一、つ、め、又、會、後、如、是
油、樟、子、の、入、元、所、と、云、前、崎、崎、三、回、忌、
と、云、前、崎、崎、三、回、忌、新、物、を、贈、り、古、池、寺、り
お、書、と、お、書、を、西洋、書、院、と、存、す、宇、流、名、
和、田、崎、谷、大、田、(お、ま、り)、の、名、の、徳、を、
う、き、利、子、を、以、て、海、濱、名、に、收、め、海、田、志、加、納、次、中
橋、垣、志、の、海、濱、と、云、一、つ、め、又、會、後、如、是

晴程打定ハ並木元兼柳美附関大印
式法関を物と知し、午後大隈邸へ行
き月一令に臨み候とし、後迄と聴せし
こと例の如し、四時分をり、宿の扱き
し又の宿の事あり、一回と此座の移り
て酒飲と思ふ事、高次仁兵衛、山若
大湯、曆年表上巻と知る

陰市、現仁兵衛、石坂三郎、柳五と名あり

州村良兵衛と申し、本出坂、丑亥年、真時平
三印、(市)大政、法科、平業、(市)兼柳、美
木、如、谷、(市)彦、(市)文、(市)本、(市)治、(市)如、(市)谷、(市)と、(市)珍
染、(市)氏、(市)カ、(市)ル、(市)と、(市)並、(市)流、(市)り、(市)と、(市)古、(市)池、(市)二、(市)流、(市)の、(市)物、(市)と、(市)持、(市)卷、(市)内、(市)田、(市)舟、(市)尾、(市)と、(市)本、(市)枕、(市)と、(市)名、(市)あり、
午後、(市)印、(市)副、(市)令、(市)社、(市)に、(市)到、(市)り、(市)前、(市)時、(市)建、(市)碑、
寄、(市)附、(市)と、(市)是、(市)千、(市)二、(市)百、(市)六、(市)十、(市)五、(市)日、(市)此、(市)頃、(市)令、(市)社、(市)に、
托、(市)し、(市)集、(市)事、(市)令、(市)録、(市)あり、(市)印、(市)副、(市)令、(市)社、(市)に、(市)余、(市)の、
掃、(市)込、(市)と、(市)是、(市)千、(市)内、(市)文、(市)付、(市)三、(市)時、(市)より、(市)日、(市)夜、(市)生、
命、(市)保、(市)險、(市)令、(市)社、(市)に、(市)到、(市)り、(市)高、(市)田、(市)村、(市)内、(市)に、(市)至、(市)り、(市)昆、
田、(市)中、(市)唯、(市)海、(市)色、(市)増、(市)田、(市)義、(市)一、(市)と、(市)号、(市)の、(市)長、(市)間、(市)延、

を内誠す塩沼の器を奉りて到るに之を
是揚き田中梅枝と奉け難きハメと
リ、塩沼を推すと云ふ心は田中梅枝の
早速教ふ事^持田中との約を食ふこと、
もろ、その後の経緯塩沼の事を先
来りき功障もあんど、去りては塩沼
を推すと云ふ事あり田中絶、
して之は田中友松もあつた大徳院寺七六
不田表らるるを以て、塩沼を推すこと
は否と得ずとあり、^{種々}凝視時を移
す、その長問題るが厄女らるる事あり

也、帰途龍舟の山店に立寄、物事

井八口

晴風、坂上東う江射を施す、彦井一躍を
久須美東馬車功有長時方と流り坂
口五峯、彦中、静吉、吾井、兼、身後の
件、存由誠す山田、所心を相き一二の事
を托す、文内、山田、一、二分謝する三
十、四、也、領收、奉御、琳、臨、冥、を、訪、あ、て、者
物、代、五、十、月、拂、浮、田、傳、士、に、賜、ふ、ま、き、資、流
通、鑑、(集、四、録、本、八、十、冊)を、贈、り、價、十、口、也

晴、相西を洋行ニ付先外状列る、大坂の康
田書店ニ日本法帖二部購入す。金三万四
日法印創刊祝賀の花義株金拂込
前増男家附金もりて全部在差
了、十時を過し外出、花田の書店と功以終
ニ涉軒一、到り、漢字店と功以金四二千
内とす入心。

〇五月

一〇

陰、中村良貞とて来去、江戸物産社と續
載と余の法政一藝苑一法(四十回)を
完結、坪内逍遥と功以を讀み、午後大隈
邸ニ用會せり、校外生大層と臨み、其會
四千人物、建りたるテント人多衆とあり
て溢る、方隈友高、白平泥り、法政等
隨具の後退散、其の時高科大子
洋物ニ於て洋法店とあり、山田山平
らし金印鑄造とあり、山田毅成也。

土坑を自がし西澤普如松の補福を依
頼す。

二日

所、坂田増五郎と云坑を自がし、華視七のうく、
丸のこ女史を携くし、教養館に物を解
い、湯州、浅倉、店を、湯のて、遊むを、
皇朝、酒飲り上、奉、回、波の、活動を見
、暖、物、書、ふ、左、や、山、田、松、桂、香、有、る、
、お、湯、産、生、の、湯、房、北、島、法、房、四、男、の
、訪、り、す。

三日

曇天、牡丹、を、鉢、久、る、未、擲、端、一、鉢、と
、燐、火、大、工、二、倍、を、所、二、材、料、二十、回、十
、尺、拂、り、山、田、松、桂、香、素、脚、竹、村、良
、貞、一、文、江、集、一、久、復、東、馬、多、加、賀、若、延、昔
、文、二、十、年、坊、子、の、接、り、あ、る、に、致、り、
、五、時、早、稲、由、美、術、会、の、な、る、永、樂、
、佐、藤、部、と、利、り、
、早、稲、田、出、身、美、術、家、の、な、る、持、未
、共、同、運、動、と、を、と、し、て、余、も、も、来、る、
、所、あり、大、作、決、する、あ、る、と、い、ふ、事、
、

すまふうしとて敬す、高田塔の中矢を
関方より二二三の玉札と接す、矢吹を
倉辻家遺出和漢を二冊、安分の紙を
送付大部合早大園を贈、寺の路の若
也。

四〇

明文の多院記あり、今二十一日、領叔山内侍
也市村英輔、来功、矢吹、物を贈る、書を
関大らりと、鈴木教之家の馬琴、関も
書と送る、事、古池、も、書、高田、二、贈
入、徳、四、十、五、日、也、お、出、理、致、午後、致、業

二三の玉札を、送る、之、後、後、東、山、の
去、向、集、を、送、り、伊、東、祐、毅、の、訃、到、

五〇

時、所、五、峯、年、終、新、一、件、行、所、由、忠、治、と、書
流、と、交、換、す、海、田、塔、士、も、書、矢、吹、通、紙
と、贈、り、と、書、海、田、利、久、次、日、以、方、と、送、り、
後、市、村、書、頼、母、木、柱、吉、と、書、一、年、也
の、件、を、内、儀、す、十、一、時、内、存、久、寛、を、合、分、紙
こ、送、り、五、峯、年、終、新、の、件、を、送、り、由、所、二
千、四、出、を、書、流、由、路、村、に、書、一、方、三、書、

具を獲ぬ、久須美東馬に此物と見せし
家名後二十五日六月三日納(納)徴税也此
列

九

雨ぬき、大集未回復を、朝来龍車
とあり、森脚車、坂上より、沼財を焚す
七池揚守敬、望橋を、おは、踏ひ、入、十
五日也、公、り、り、冊、去、書、帳、二、部、の、下、物、々
作、木、士、遷、の、大、橋、を、々、午、後、二、時、早、大、の
維持、更、存、に、依、り、決、異、を、決、議、す、大、隈、氏

東表

常海迄、重、重、浦、迄、才、と、田、中、唯、一、痛、氣、見、ん
高、歌、ま、の、件、と、協、議、す、五、時、上、り、梅
川、に、稀、有、復、数、々、今、才、三、年、送、出、の
以、見、内、田、和、田、林、三、村、と、今、有、狹、十、的
帰、宅、林、荒、村、に、紙、取、を、傳、受、と、
山、東、京、山、の、寺、尚、二、冊、貸、付、早、大、團、を
踏、し、三、冊、寄、在、玉、々、毎、借、入、

十

町、村、に、は、浪、中、早、大、花、六、朝、玉、希、家
為、福、河、齋、花、原、進、之、興、七、冊、陳、列、の、あ

貸付山田所心並木見林次廣井一と
電話と文山山陰院の久須美を廣井
の都合見え見合す。林村高久才取坊指
守部全集(内四)配をときよく大丸出
張るまに才下村初し配店より豊却香次
印と此に才取指と配と云。西村六郎(校
友)園と取部(才取)と云。林村高久才
日庭と取部(才取)と云。没頭

十一日

雨、朝よりあましく多脚、坊主、毛、雨、
珠瑠(各)三、寺、四五の控をと解りてこくる

法隆寺北畠具雄文故男音吊状とある
関ちりしとすも、ある、ある、午後民に
控録を草す、林村高久(才取)の件
、才取指と云、一、ある、ある、ある、
ある、ある、久須美(才取)と云、山陰の才
十、才取(才取)の文、珠瑠(各)と云、
あり

十一日

雨、廣井一、久須美(才取)馬、臨海音(才取)山
田所心交、才取(才取)古地(才取)三、又(才取)出書
、才取(才取)十一、雨、才取(才取)合、才取(才取)

利、昨年、初めこの書を珍しく國
一に之を庭樹生茂りて中、之を爲の前
と木の葉、其の如く、定内、海、晴、くま、地
也、二の宮、計り、投、却、し、う、後、頭、す、不用
洋書、を、五、十、冊、檢、出、を、書、く、お、海、の、
和、本、本、格、又、賣、の、あ、入、久、と、乾、す、也、
四、時、帰、宅、出、貯、部、と、す、也、

十三〇

天氣未回復、毎朝雨、雨、の、如、し、高、森、琳、琅
閣、を、損、き、旅、庫、と、受、却、す、此、代、皇、四、十、二、四

五、十、製、也、行、村、其、次、上、山、辰、麻、若、を、し、ま、也、
拙、書、を、も、と、え、す、有、る、十、一、時、を、し、出、游、神、田、帳
並、に、旅、行、用、の、物、を、懸、ひ、松、喜、の、酒、飯、の、上、流
者、に、通、ら、り、先、と、共、に、帝、國、帳、に、入、る、時、百
ゆ、り、も、福、井、海、兵、部、を、し、ま、也、且、つ、和、歌、山
縣、市、に、し、紀、州、を、し、一、巻、を、送、り、来、る、
之、を、と、先、此、の、回、を、送、協、會、に、余、和、歌、山、縣
、出、張、を、し、し、と、ま、り、念、を、し、し、と、贈、る、
也、也、和、歌、山、縣

十四〇

哲の帯の久米邦武甚る裏日本を
翻讀し無聊を消し、鶴子以西の回
圃ゲンゲ州を以て移し一程の風改
あり、先右をうも合をこへり茶を喫す
七時三十分京都着、徳尾にも自動
車の出迎を受け、其より日輪館に投
ず、此の館舎を余の十五年前宿と
し、し、其の後、終局に轉し、此の館
次より須美と曰行、其の地、食
後寺崎、其の功、前途の日程を議す

十六の

時、八時三十分京都に茶驛をり、車山
陰の程より先づ汽車を保津川の溪
流を沿ひて走る、保津川と嘗てある三
度舟おせしことある、此の沿岸の汽車
に乗る、今回を始めとす、車窓を溪
流を下瞰し、筏の下のさまをうらみ、見し如
の興味を感ず、是れ行けは森林愈々深し
園部と云ふ、其の古代材木を賣し、其
石と云ふ、伐採を久しきことある、高は森
林の勢、其のとらん、丹波の殖林風也

の一端を窺ふべく、其こぶへしとす。十時、丹波の渡部をこぐ。こゝを大本坂の古名あり。太古漢の移民をこゝに漢部と云ひし由、渡部と云ふも漢部の訛歟、何んぞと云ふ地の開けたる處、大化以前に在ること知るべし。漢の移民は、專攻の奉勅あり、後、移民に對する制を改めんと、今日皇室を護めたる源氏の勢を力すあるを見、何と云ふ淵源あり。このゆき、國をき能りたる也。北邊に墜道相蹕と、忽の忽暗、斯る後也。

こ便と云ふ、久米前の著、徹するも、年也。粟の二種と上代とて、貢せり。物産と云ふ、但比丹波粟と桑田郡に多と、數す。この所、泥道、栗樹をえず、汽車を疾走し、福山に達す。丹波の京を名ふべき、あまの地、汽車をこゝに合岐し、段々、福山と云ふ、此線、福山、次驛を即ち市嶋野と云ふ、余り、祖光の起りたる所、名、乗換する、あまの、る、こゝを、物、此野の、通、を期すと云ふ、福山の北方、一山の徑、

あまをゆかりの海に所謂鬼窟と云ふ大江山也。
間もさき朽久野と云ふこゝに應仁の乱
又但馬の山名宗全と細の徳元の丹後守後
内務前守宗全の地を使上るの地
あり夜久野のトシ子んをさきと時正二十
二時、えんを但馬の入り北をさきとトシ子ん
多く走ると地中を行くと思ふ、和田山、
八麻(或は屋田)江原豊三ボの移居と
さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき、
所とあり、さき、さき、さき、さき、さき、
柳井、牛とをさき、神宮、牛とをさき、

此地、さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき、さき、
うが、柳行本と云ふ此地の名も也、豊
三の次驛と云武洞と云ふ一帯の溪
流を隔て山林ある洞穴を見、こゝ即ち
玄武洞と云ふ驛と云ふ一帯を期
し汽車の疾走に任ず、此地をさき、城の崎
りもさき、海峡の风光美也、一時十分
城の崎に著る車、こゝに古来温るのを
以つて名あるの地、田舎と云ふ一帯を
期すといふ、此の地、トシ子ん、くお
睡き、恐ろし、忽ち、あま、さき、さき、さき、

六信也、九物の大村湾と云く、この地あり、次
駅依津下、京河と距る七十里、八哩大社を
距る七十里、二十五哩と云く、香住野の所の
ニ東の湖あり、湖畔に温泉あり、大乗
寺と云ふ寺あり、多くを為る、并に其一派の
画と花する、あるを、寺の法堂の物、
馬部馬部の一
名所と、架空城塔、東東の弁天山の中腹
に、西の山名神山の中腹に、塔あり、三丁三丁
の長き城塔あり、橋下村の人家の屋を見
る、日本に此式の塔あり、このこのみやと云く

久谷、渡辺、岳岳組、茅の駅と云く、似馬、茅茅
終に鳥取驛に達す、午時三時半、船船の
の終りをいしと云く、とと云く、此此の地をいし、都都をいし、
小山、木木、渡渡村、青青谷、泊泊、茅の法驛と云く、
き、松松崎、野野、着着、山山陰のトシ、みみん、ここ、らら
りて八十五ヶ所あり、松松崎のり下車し、
八車と云く、いい、行行く、五五下、谷谷、東東郷湖、畔畔
の長、生生、鼓鼓、とと、投投す、北北湖、内内、田田、三三、里里、風風景
信也、湖湖中、浸浸る、湯湯、之之、九九と、流流、路路、のの、流流
宮に引き、谷谷を、待待り、ああ、のの、硫硫、氣氣、ああ、谷谷
後、一一、内内、森森、次次、坂坂、和和、田田、丹丹、美美、森森、跡跡、才才

（終をくまもむらみ）此の美ゆを彼の先年
大興茂少彦のこひの泊のまふ也。能記
と我のこゝろを他へ人家より、知る今
新夢を感す。

十七

今日大社まむ直行直りより引返へし松江より一
泊の終定まむ朝八時分の汽車三投
す、上井^{アゲ}まむトシ子ん三四あり、こゝろをトシ
めんまむ、此の四トシ子んを合せんハ経来る者
西三十八個所に連り、トシ子んを山陰道の

一光拓き、織道まむの難志ありし、赤井駅
（東）し一山高く登り由、角盤山と云ふ海抜
千八百七十メートル俗に伯耆の士と云ふ
ものこゝろ也、こゝろを連り一山を能上山の
て名和取長年の史蹟と云、赤井屋、
淀江の野を經、十時^{ミチ}米子と云、こゝろハ
伯耆の大市也、安木^{ヤスキ}以西と云、此の
ケンゲ子田圃入りたり目を惜みず、楫屋
驛^イらし出雲路、目今島根縣に属す
馬淵^{ウマ}とこき、意をを即めは、一帯の川を
中より出たり、折木野の美奈丸と云

か、登り進めは太湖湖前、展開し来り
これ出雲より多々突道湖、（松野） 飛鳥
谷を伝ふ也。松江直江と云き、（越前） 越前川の流
り今市、乗換朝山（朝山）を伝ふ出雲大社
に達して下車す。此時既に十二時を過ぎ
ゆゑと直ぐは参拝す。此社を歴史上大切
の意味あるもの、境内の風景をたゞそのまゝの
祀り及へざることを遠く、在るに遠く大廟
の及ぶ心算、（白木） 社殿白木造りなりとも
彫刻をみあはせ、而部混濁時代の自然
を留め、境内見るとも、御神樂を

献し神前と跪き神酒を受け、直ぐ去
つて祀前の一帯に入らば、午時（二時三十分）
汽車に接し（四時半）松江に着、（美観） 美観
に投ず、松江と突道湖畔の市街を
出雲の都也。旅館を湖に臨み、（松野） 松野
旅館旅館を感ずる日、（美観） 美観に接し
後散策市上、（馬城） 馬城に
別り観る。帰途、（松野） 松野に入り、（校） 校を
を招き杯を交し、（松野） 松野の旅館に
り湖に臨み、（松野） 松野の旅館に
やのびや節を認め、（松野） 松野の旅館に

を働かす玄武洞をりんと出立つ。玄武洞
ら約七をり、自動車と碓の如き垣を
を疾走す。丹北道と内海に流る心丸
山あり、多瀬内海に似て風光甚し。任
也。十去分洞とて流し場をなす。舟に
し。前岸に在る。玄武古龍の二洞
穴あり、先づ玄武洞に今見えん。想像せし
「しり」途う大なるものなり。その密集する
六稜角の石柱の大ききも直径尺五寸し。二
●尺七寸及ぶものあり。壯觀言ふべし。この
入りの玄武洞の三字刻しあり。此の石を築

栗山のの余し。其のたところ。古龍洞の前
あり。す。この柱を廻るも。ある。と。是。比
り。繪え。り。き。し。を。贈。る。を。余。皇。内。務。
に。就。き。自。動。車。疾。走。十。分。計。り。を。旅
食。こ。着。す。初。を。施。社。を。解。き。一。浴。す。浴
室。と。施。食。の。前。に。在。り。御。所。の。湯。と。云。ふ。此
郷。の。所。●。浴。場。の。一。つ。を。皆。る。共。同
浴。場。也。郷。人。湯。量。の。減。ん。こ。と。を。害。ん。を
内。湯。を。甚。禁。す。と。云。ふ。浴。場。の。設。備。甚。し
敷。山。の。透。明。り。ん。と。も。甚。し。硫。氣。あり。り
り。マ。午。帰。入。病。の。特。效。あり。と。云。ふ。浴。後。一。酌

石原を經て綾部を過り、市^町の北日鏡山
上ニ一字の堂を見ふ、又一高岡を望む共
ニ大本教の建造あり、と隘を其を園
堂ハ市を取と云ふより、車中の各指點
して曉る、綾部とて鐵道^{鐵道}線分岐新舞
鶴に到る鐵道^{鐵道}あり、舟後の天橋より
行くより新舞鶴に行く事、梅^梅道梅^梅道
^{（五のせこ）}を經て舞鶴に到り、こゝに乘
換海舞鶴^{海舞鶴}に出つと、順路とす、此道の
線路極めて錯綜不便甚し、乗換頻
あり、と驛^驛ニ毒坊無く、荷物の扱あり

東美濃郡

ろし、炊^炊ニ酒^酒を飲^飲り、由りて、此道とす、終ての
る、物を舞鶴驛^{舞鶴驛}に預け、海舞鶴
に到り、舟後の宮津、往來する連絡
汽船、乗る、午時午後二時三十分、こゝ
より海路二時間あり、と宮津に在り、此の
海路、舟の數の崎嶇、船の間に在り、と
狭きと云ふ、船を二、三噸程のものあり、宮
津埠頭、上陸せん、ハ、雨に到る、而して埠
頭ニ乗る、と、舟車あり、と、日城と、崎
旅路、より雪路と、此の旅路、余、某寺
の寺とあり、ありし、あり、と、モートル船

孰く、此の地帯は三條の松原に比すべし、一層視
摸大なり、風趣も甚に似たり、唯比圖大なり
異るるを彼んを在りて海上に突出す
る岬をえとも、こんを西山の一端とて一端に
直して今も海を遮断す、え橋を以て
名づく所以也、但し此の地帯は遮断さ
る一方の海も甚に狭く、往々海水溢
れ、此の地帯を（毛の故み）決潰す
ることあり、今小松の點々列をわす所ハ
の況也、年々決潰し、今所とまふ、其後追々自
然と復舊し、縫目を見ざる能はざる自然

の如とまふべき歟、輿夫の傳るる事、此
の地帯は丹下岬破す、と尤も風致ありと云
ふ左もあん、輿夫又左方海を隔て山林
樹村の河の一村をさして、あんと謝せ
村のあんと、此の海を真謝とまふ、其
村の姓の起る所以、輿謝の結符のあんと、
あんと生る、風景文人を生む偶あり、あんと也
輿夫亦左方の海をさして、あんと海と云
ふも、こんと誤り、水を隔て、山を隔て、山林
人家を隔て、あんとを丹後縮緬を弄
する、山を隔て、あんと、輿中のあんと

橋入たのしく、淡瓦の内早く敷竹をさき一
の端を待、岩見重たの復離の地と云ふ、此の
に廿五村の句碑あり、一句を刻す曰く「橋立也
初と月口のころん種」又和島式部の遺跡
あり、漸やく、瀉し坊入るり、楽と云葉つ、
えんと流んべ、文珠因石在の帯の一端を在す、
歩して文殊を拜す、此の境内より、常の河反比
りし神鞭知孝の豊碑あり、脱帽一拜、
り去つる二十町を歩し、世落考、若木別領
にさへる、一浴一酌臥す、終夜船聲、
やなく、松中漁夫、船を網する也、旅彼の

岸風より、浪の海舟の橋立と云ひ一首の
初流を待、岩見重たの復離の地と云ふ、
んるる千早振神のさき、天の橋立、大抵
右勝をえり、出印をさるる、稀んる、評判の
まけ、五十の八九を占め、而して天橋を
流る、船を網する也、
此の河見重たの復離の地と云ふ、此の
橋立の地、来り、池を橋立と見らる、
稀也

時、今より船が、戻り改修城道にて大治に
えんと清し、早朝福会を、^{先づ}空津の市街を
見る、昔しと、^{ある}舟の地、^{さう}し、七今を、^正敷
大い、^潤し、^今、^元竟、^交也、^不使、^のお、^る、^ん、^市
中大、^規換、^ふ、^火壇、^と、^後、^中、^家敷、^敷、^と、^ら、^ん、^と、
海魚、^と、^焚き、^輸出、^す、^る、^ま、^と、^又、^軒、^頭、^ふ、^白
色、^の、^い、^ら、^を、^吊し、^あ、^る、^を、^見、^る、^其、^の、^美、^麗、^院
^ま、^ま、^心、^つ、^き、^何、^と、^ま、^い、^ら、^る、^と、^聞、^く、^代、^い
^か、^と、^云、^ふ、^と、^ま、^ふ、^此、^地、^の、^人、^と、^此、^の、^魚、^の、^腹、^中、^に
酒、^を、^入、^ん、^火、^を、^く、^け、^と、^割、^し、^其、^酒、^を、^吞、^む、^と
^後、^肉、^を、^入、^ら、^ふ、^あ、^つ、^ら、^う、^味、^美、^う、^と、^ま

ハ時半、^舟、^の、^埠、^頭、^を、^離、^れ、^時、^と、^同、^し
連絡船也、船中、^舟、^所、^古、^津、^の、^地、^誌、^を、^見、^る
丹後のあ、^糸、^時、^代、^の、^歌、^を、^後、^と、^い、^ひ、^め、^を、^思、^ふ
曰く、^二、^分、^と、^行、^ま、^い、^丹、^後、^舟、^の、^二、^階、^縹、^の、^旗、^布、^に
^坐、^る、^ら、^う、^丹、^後、^舟、^と、^あ、^る、^的、^の、^銘、^金、^錫、^也、^今、^今
辨記し、^丹、^後、^の、^名、^津、^と、^記、^ふ、^存、^ん、^と、^こ、^ん
也、^又、^天、^橋、^の、^地、^名、^を、^入、^ん、^と、^い、^は、^る、^云、^く、^雨、^の
降、^る、^日、^を、^今、^松、^下、^ひ、^二、^人、^成、^れ、^其、^海、^の、^海、^十
時、^廿、^五、^分、^海、^高、^船、^に、^着、^り、^ち、^り、^乗、^車、^一、^島
船、^に、^上、^り、^船、^中、^に、^着、^り、^乗、^車、^一、^島
又、^後、^部、^と、^し、^乗、^車、^一、^島、^乗、^降、^乗、^換、^の、^炊、^し、^き、^こ

と前ののりし、結部の下車中一喜し、今午
のいと喫す、之須美、原井大を及の社河見
おと行く今もひとを茶店に寄り、一時四
十二分、菟福地、汽車に投し、福地山を又棄
換、えらむ但馬州、田の驛を往て、中尾驛
を過ぐ、北野兵庫、氷上郡に在り、驛の
標し、いちいまとあり、吾に祖先の起る所ハ
此地より、乗換の炊を思ひ、及於、徳に乘り
ぬも、一此の地の地を過きんとせ也、驛の附近
に一倉庫あり、大字に克兒、運送、倉庫
とあり、地の克兒の二字を覚えて、床しく感し

去見り、吾に祖先の姓なること、丹波志に詳
し、天正年、百明智と云はさんて、後、豪
士とあり、溝尾氏に、隨從、加賀、大聖寺に移り、
後、又、坂後、に移る、地名を姓とする、
い、兼士、郷士とあり、その後、
形も、
地、
樹木、
露、
事、

午後七時頃、向ヶ丘出發、余は久須美と午後
の終り自動車と駈り上本町六丁目：到り
たの良折の電車に乗る、一時降りて
たの良折に下り、直ぐはたか波に到る、今次
の陳列は法隆寺の主催の儀、聖徳太子
千二百年紀念の意味と御物と法隆寺の
寶什とを併せて出陳し、さうして平常一
親に訪はさるものも東旅の人も、たの良折の古
物研究とやらえんものと、真の得易いところ、好
時棧也、但し遠く感とすると、時河の跡地と
く、精説の邊さきこと也、一順宮田のこの

年帳、一言、とん、と、後、印刷、目録、を得、
ハ、この者、暇、す、一時、方、む、と、眼、福、入、候、
と、彼、と、出、び、前、年、修、理、成、と、す、大、佛、殿、を
寒、し、更、と、と、春、日、社、境、内、の、新、緑、を、賞、し、
又、電、車、に、乗、り、湯、島、大、改、の、先、家、の、
へ、り、晚、の、山、後、七、時、三、十、分、の、汽、車、に、投、じ、
都、の、今、佳、處、に、投、有、す

二十二

明、今、朔、物、を、携、り、て、大、丸、主、人、下、村、正、右、衛、門、の、病、を
問、ひ、去、つ、と、鳩、を、名、に、到、り、久、須、美、寺、崎、聖、と

為るに此家の書畫を以て川内梅屋山陽の
畫幅を一説、由書冊印譜本等を購ひ、三人
おぼえを此所の頼龍三を以て、頼三は
ふり山陽の山陽山紫の画を一説、見とれ
する也。龍三と余舊交あり、ふり山陽の
中春の福船十七冊を以て、自筆の在津地
事引翼、御編等を示さず、皆其後年
こと、此の一時見せしむる也。その後他よ
り、ふり山陽の山陽山紫の画一説、見
頼の後、ふり山陽の山紫の画一説、見
五の危地、荒干と侵略し、家を建てる事
終り、訴訟とす。六年とす。近自漸也、
訪津とす。是れ、藤原家とす。其の
一説、見とれ。ふり山陽の山紫の画一説、
入り出来ず。今とす。人に見せしむる也。
此次、中説に入ん、と辭退あり。是れ、
入ん。午後二、三時の頃、舟の
約し、辭して南郷寺境内の
と共の日す。

以下別冊につづく

終り、訴訟とす。六年とす。近自漸也、
訪津とす。是れ、藤原家とす。其の
一説、見とれ。ふり山陽の山紫の画一説、
入り出来ず。今とす。人に見せしむる也。
此次、中説に入ん、と辭退あり。是れ、
入ん。午後二、三時の頃、舟の
約し、辭して南郷寺境内の
と共の日す。

